

訪問国：ノルウェー

研修テーマ：生徒指導の充実

所属名 千葉市立泉谷中学校

氏名 御子神 直美

1 はじめに

平成 25 年公布の「いじめ防止対策推進法」を受け、千葉市は平成 28 年 3 月に「千葉市いじめ防止基本方針」を策定した。いじめは、子供の人間形成、生涯に大きな影響を及ぼし、時には生命にも係わる深刻な問題であり、“どの子供にも、どの学校にも起こりうる”ことを認識した上で、未然防止を含めた柔軟で適切な判断と対応が求められている。

今回、ノルウェーの国家プロジェクトによるいじめ防止対策と学校環境に対する姿勢や考え方、具体的な手立て等を学び、千葉市の目指す「いじめのない安心・安全な学校生活」に向けての方策を探りたいと考えた。

2 ノルウェーの教育状況

ノルウェー社会の特徴は、民主主義（男女平等）、総合的福祉政策（国民保険等の充実）、無償教育の3つである。特に、教育に関しては義務教育から高等教育まで、授業料、教材費、通学費、給食費も含めてすべてが無償である。

1997 年の教育改革により、義務教育の期間は6歳からの10年間（小学校7年、中学校3年）に延長し、一方向の学習から双方向の活動を重視する学習を取り入れた。1学級の平均は18～22人と少人数で、放課後の過ごし方は主に家庭に任されている。子供たちの約4割は移民系住民のため、言語や生活について、必要により通訳やソーシャルワーカーの配置、1年間の「適応クラス」の設置等のサポートを行っている。また、聴覚障害のある生徒の教室では、2人に1つのマイクの設置等、インクルーシブ教育も充実している。小学校では自由活動を重んじていることから成績表はなく、保護者会や面談を通じて学校生活や学習の様子を伝えるなど、家庭と連携を取っている。中学校では高校に進むにあたっての選抜試験はなく、日常の成績等で入学を審査する。高校は3年制で普通

科と職業科があり、9割以上の生徒が進学するが、約3分の1がドロップアウトする現状がある。

1982年、激しいいじめを受けた少年が自ら命を絶ったことが社会問題となり、翌年には、教育省によるいじめ防止キャンペーンとともに、実態調査が全国的に行われ、現在のいじめ防止プログラム（オルヴェウス・ゼロ・PALS・コネクトオスロ等）や地域の取組（子供オンブッド等）へと発展した。さらに、昨年度からいじめ対策のための予算倍増、学校環境改善の重要性の提起等、国の方針が強化されている。

3 学校訪問をして

(1) オールトゥン中学校

全校生徒340名、職員58名。「生徒にとって安心で安全に学習できる学校」を目指し、オルヴェウスプログラムを導入して5年目になる。このプログラムの主な目的は、いじめの減少・根絶・予防・友情の促進であり、研究されたプログラムに基づき、いじめのビジュアル化、理解、予防、解決方法を学ぶ。導入（キックオフ）として、全員が笑顔で手をつなぎ、「いじめは絶対に許さない！」という思いを確認するイベントを大々的に開催した。「思い出すと今でも胸が熱くなる」と話すラーセン校長からは強い熱意が伝わってきた。

プログラムの核となるのが、いじめに対するスキルアップを目的とした授業であり、教師がリーダーシップをとり、2週に1回、30～40分の時間を教育計画に位置付けて実施している。はじめにルールを確認し、何を学ぶ時間なのかをしっかりと意識させることが大切である。この授業は生徒



【授業の様子】

【ルール】

*顔が見える隊形

- 1 発言時は、必ず手を挙げる
- 2 誰にでも発言権がある
- 3 人が話し終えるまで待つ
- 4 人の発言を否定しない

にとって、自分を振り返り、相手をよく知る機会となり、これによってクラスの相互理解が深まり、団結力を高めることにも繋がっている。

いじめが発生しやすい場所や時間帯は徹底的にマークし、中でも休み時間はインスペクター(監視員)を配置し、早期発見と抑止力に努めている。また、クラスから「居心地の良さリーダー」を選出し、気になる生徒への声かけとアクティビティの提供を行うことでリーダーの育成にも力を注いでいる。さらに、校内の目立つところに「オルヴェウスのルール」を掲示し、常にいじめ予防への意識高揚に役立てている。

【オルヴェウスのルール】

- 1 人をいじめない！
- 2 いじめられている人を助ける！
- 3 一人になりそうな人と一緒にいてあげる！
- 4 いじめられている人がいたら大人に言う！

いじめが発覚したら程度に関わらず保護者を巻き込み「いじめには必ず原因がある」と考え、被害生徒と加害生徒の双方を全力でサポートする。

生徒からは、「クラスの居心地が良い」「学校生活が安心して楽しく過ごせるようになった」「先生の仲が良い」との感想が多く寄せられており、取組の成果が表れている。いじめのない学校づくりの基本は「職員が信頼関係を築き、生徒のお手本になること」という

考えのもと、誇りをもっていじめ防止に取り組んでいる姿勢から、多くを学ぶことができた。

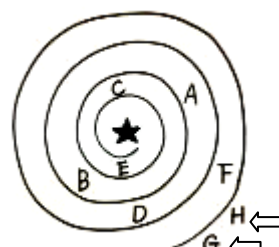


【お互いの良さを伝え合う活動】

(2) オスロ市教育委員会

環境チーム(8名)を結成し、市内180校の環境改善(課題解決、いじめ対応等)に向けてのコーチングとサポートを行っている。「いじめがないからといってより良い学習環境とはいえない、お互いにインクルード(一員として感じること)できる環境がいじめゼロと学力向上に繋がる」と考え、現在は「学校環境の改善に向けたチームづくり」に力を入れている。より良い学校づくりに重要なことは、職員の相互理解と「先生は自分のこ

とをみていてくれる」と子供に感じさせることであり、そのための教員のスキルアップを重視している。ドロップアウトした生徒からは「先生との距離が遠かった」という言葉が多く聞かれるという。「良い関係を築く責任は教師にある」という言葉が、強く胸に響いた。



【配慮すべき子供】

クラスに関わる職員全員が、自分を中心にした渦巻き上に、距離を考えて子供の名前を記入する。複数の渦巻きの外側に書かれている子供がいたら、教師は意識して、距離を縮める努力をしなければならない。

4 研修成果の活用

ノルウェーでは、性別、年齢、国籍にとらわれず、お互いをリスペクト(尊敬)することの大切さと「いやなことには『ストップ!』という責任がある」ということを幼い頃より教えられている。学校訪問での「ノルウェーの子供は、生まれた時から大人同様一人の人間として尊敬されます」という担当者の言葉が強く印象に残っている。この考えが、人の存在や権利を損なう事態に対して全力で立ち向かう姿勢となり、積極的ないじめ防止対策に繋がっている。

日本でも、人間関係のトラブルが日常生活の様々な場面で発生し、学校ではその対応に追われている。しかし、これらの出来事を子供たちが乗り越えなければならない発達課題の一つとして考えたときに、トラブルをなくすことに重点を置くのではなく、成長に繋げることがいじめの未然防止になり、子供たちの生きる力に繋がると考える。そのためには、子供たちをしっかりと見つめて正しく理解し、どのように成長してほしいかを具体的にイメージさせることが大切である。そして、その求める「大人像」に教師自身が近づく努力をしなければならないと強く感じている。この研修で学んだことを生かして「千葉市で学んでよかった」と思える教育を目指し、いじめ防止はもちろん、子供たちのより良い成長を願って、養護教諭として様々な場面で働きかけを続けていきたい。